

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「その人らしく暮らす家」に基づいて、職員同士、ケアに取り組んでいる。	ホームの理念「その人らしく暮らす家」に加え「住み慣れた地域でその人らしく、ご家族との関係を保ちながら、最後まで幸福に暮らせるよう支援します。」というサブタイトルが添えられている。毎月第一月曜日のホーム会やカンファレンス、申し送り時に実践しているかどうかのふり返りをしている。職員も家族との関係を円滑に保ちながら入居前の暮らしを大切にし本人の生活を支えている。運営の理念が各ユニットの入り口に掲示されており来訪者にも分かりやすくなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方がサクソ演奏や、地域の中学生が草取りのボランティアにきたり、又、地域の清掃活動に参加させてもらい交流の機会が持てた。	夏祭りや運動会などの行事にお誘いがかかっており、昨年は地区の小宮の御柱祭にも参加した。地域の清掃活動には職員が参加している。ホームの草取りや書道、フットマッサージ、サクソ演奏などのボランティアも来訪しておりそれぞれ終了した後お茶などを飲みながら歓談している。福祉大生の実習の受け入れなども行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生など実習生の研修を行っている。電話による相談がある時には話しを伺っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現在の活動内容や利用者の状況をより詳しくお伝えしている。特に災害に関しては消防団にグループホーム内を見てもらったりして認識してもらおうようにしている。	概ね2ヶ月に1回実施している。入居者家族、地区の区長や民生委員、社協生活支援員、地域包括支援センター職員、広域連合職員等が出席し、入居者と交流したりホームの状況説明後、意見や要望を頂いている。特に地区代表の方には防災面での貴重なアドバイスや協力を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は日頃から必要に応じて、連絡をとり合って連携を図っている。介護相談員が月一回来訪している。	市や広域連合の担当部署とは事故報告や情報交換・相談などで良好な関係が続いている。広域連合主催のケアマネジャーの会議にもホームから参加している。2名の市介護相談員が毎月1回来訪しており行事に参加していただくなど協力的である。ホーム長が市の高齢者保健福祉計画の認知症部会にも係っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を会議で行ってケア向上に努めている。しかし、入居者の状況、リスクに応じて、家族との相談の上やむをえず行っている方もある。	日中玄関の施錠はしていない。現在夜間の安全上からベッド柵をせざるを得ない方がいるがご家族には了承をいただき早期にははずす方向で検討を重ねている。身体拘束をしないケアについて職員は正しく理解している。外出傾向の見られる入居者については見守りや声がけをし、場合によっては車でドライブに出かけるなど気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議において、高齢者虐待防止法について勉強会を行い、管理者や職員の意識づけや理解の向上に努めている。		

グループホーム・せせらぎの家 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議で勉強会を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約にあたり、御家族の不安や疑問をお聴きしながら理解・納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や行事の時は、家族が気軽に意見要望を出してもらえ関係作りに努めている。介護相談員の方に行事に参加してもらいながら家族に知ってもらうようにしている。	ご家族等にはホームへ来訪していただくよう担当職員から働きかけをしている。殆どの家族が月に1回以上は来訪しておりその際に意見や要望をお聞きし遠方の家族には電話等で様子を伝えている。毎年家族等が参加するいちご狩りや敬老会、日帰りの温泉旅行等を開き、職員と交流し要望などを聴き取りサービスに反映している。行事については昨年までユニット毎で行なうことが多かったが、今年から入居者の状態に合わせてグループ別に2日間に分け実施している。事業所から家族へむけての便りを毎月送付している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を行ったり、職員の要望や意見をきくように心掛けている。	毎月第1月曜日の18:00から全職員が出席しホーム会を開いており、各ユニットの様子、研修報告、行事予定等について話し合っている。会議は話し易い雰囲気です。双方向で進められている。また職員毎の年間目標が立てられ、ふり返りの場として年2回程度各ユニットの主任との面談が行なわれている。意見や要望・悩みを聞く良い機会ともなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は時々現場に来ており、業務などの把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年は外部研修を受ける機会が少なかった。 外部研修はホーム会等で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所グループホーム連絡会の会議は管理者が出席している。 認知症カンファレンスを行う機会があり、出席したが全体的に少ない。		

グループホーム・せせらぎの家 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に自宅や利用している事業所に訪問し、本人や家族に会って話を聴いたり、ホームにも見学に来て頂き、職員との関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今年度、2つのケースの入居があった。1つ目は家族が在宅での大変な思いや入居しているからの本人の変化に対する不安を聴いている。2つ目は家族内での思いの違いを聴くようにしている。それによって職員と家族の信頼関係も築けてきている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族と見学に来て頂き、ホームの雰囲気や他の利用者の様子を体験してもらい入居してもらった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の知恵を教えてもらうことはあるが、以前に比べ、減ってきている。 職員側からの働きかけを多くしていきたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	あまり面会にこれない家族には行事への参加を呼びかけたり、本人の近況を伝えている。職員だけでは対応が難しいことは、家族の協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の住んでいた近くにドライブに行ったり、家族の協力で温泉に行ったりしている利用者もいるが、出掛けられない利用者も多い。	同級生がホームへ来訪したり、自宅の近所の方が訪れることもある。入院時にマッサージを担当した縁でホームの入居者を訪ねてくれる方もいた。入居前からの馴染みの美容院へと家族とともに出掛けたり、職員が送迎したりしている方もいる。お正月やお寺・自宅の仏様のお参りなどで帰省する方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やソファの座る位置を配慮している。 トラブルが起きそうな時には、早めに職員が対応している。		

グループホーム・せせらぎの家 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病状が悪化して病院へ入院した入居者の面会に出掛けて、本人や家族の不安な思いを聴いて励ましている。 その方が亡くなった時に家族の希望で職員がセレモニーセンターへ会いに行った。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉に対して、言葉だけに振り回されずに言葉の裏をくみとったり、言葉の発することができない方は表情などを読みとりながら対応している。	入居時の情報や入居後の日々の個別記録などをカンファレンス等で検討し共有している。殆どの入居者が自分の思いを表出することができるが普段は本人が言い易いように傍に腰掛け動きかけ聴くようにしている。言葉に出すことが難しい方には思いや意向を表情や仕草から推し量っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の会話や、家族からの情報から暮らしの把握に努めている。しかし、職員間の情報の共有化が十分ではないので、今後工夫する必要がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中、居室で寝て過ごされている方には、働きかけをしていくようにしている。 また、それぞれの利用者の有する能力を把握して引き出そうとしているが不十分である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の希望がケアプランに反映しづらい。ケアプランがタイムリーに変更できていない。	職員は1人から3人の入居者を担当しており、計画作成に参画している。参加可能な職員を集め、月1回のカンファレンスを数日に分け、入居者ごとに実施している。状態に変化がみられる場合には計画の見直しを行なっている。家族等にも内容を細かく説明し、コピーも渡している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は記入できているが、ケアプランに沿った記録が十分でない為、実践へ生かされていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の送迎や付き添いの支援を行っている。		

グループホーム・せせらぎの家 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に介護相談員の方が来たり、コーラス・サックス・書道のボランティアが来て参加している。又、出張美容院の利用や地域の行事にも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の理事長が主治医の利用者は定期的に往診をうけている。又、入居前からのかかりつけ医のある入居者は引き通院してもらっている。必要な時には家族の同意の上、受診している。	入居前からのかかりつけ医を継続している。入居者に関わる各医師による往診もある。インフルエンザの予防接種は法人の代表者である医師により行われている。受診については家族の付き添いを基本としているが健康状態について把握している職員が付き添い、医療機関にて家族と落ちあい同席することもある。入居者の平均年齢も88.8歳とかなりの高齢になってきておりホームの3人の看護師によりきめ細かい対応が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、日々の体調の変化や表情をみながら、早期発見に努めている。変化がある時には、看護職に報告し、医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の情報を医療機関に提供して職員も病院へ見舞うようにしている。病院と家族との情報交換をしながら、グループホームとしての支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から家族と情報交換をしながら、終末期にむけた取り組みを行っている。また、主治医から家族へ状況の説明をしながら、家族への思いを受け止めてグループホームでの支援につなげている。	入居時、家族などに重度化した場合等について十分説明がされている。この1年間で2件の看取りを行った。その際には家族も最期まで付き添い、ホームや職員に対しても感謝の言葉を頂いている。その過程では状態の変化に合わせて家族の意志を確認し、医師、職員との連携を取り方向性を一つにしている。他の入居者もうすうすその気配を感じ取り全員でお別れすることができ動揺や混乱は見られなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の緊急マニュアルを整備して職員が対応している。 今年には定期的な訓練を行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	会議などで定期的に話し合い、マニュアルの作成を行っている。 避難訓練を行って、避難経路の確認や消火器の使い方を訓練している。 自治体や運営推進会議で協力してもらえように話し合っている。	年2回、避難訓練が実施されている。地域防災会議も立ち上がっており、地区の役員からは非公式ではあるが運営推進会議で協力の申し出がされている。地区との防災協定については運営推進会議でも議題として上げ締結に向けて働きかけをしている。スプリンクラーも設置され、茅野市防災ラジオも備えられており、介護用品等も多めに用意されている。	

グループホーム・せせらぎの家 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の生活の中で、本人の気持ちを大切に考えて、さりげないケアを行っている。分かりやすい言葉で話しかけて、自由に意思決定ができる配慮をしている。外部からの情報については十分理解して責任ある取扱いと管理を徹底している。	入居者への呼びかけは名前に「さん」づけで、職員の言葉かけもおだやかで、耳の遠い方にも適度な大きさで支援が行われている。入居者の尊厳の保持とプライバシー保護についての研修はホーム会等で実施している。職員の入職時にはホームの方向性を示し、それに沿わない時はフロアの責任者である主任から注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいメニューを聞いたり、誕生日のケーキを選んで頂いたり、一緒に買いに行くようにしている。 何気ない会話から、本人の気持ちをくみとるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の気持ちを察しながら、散歩や外気浴など行なっている。しかし、ドライブなどの外出回数が減っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時に着替える服を選んだり、はおり物を決めてもらっている。 髪をとかすことができる方が、自ら鏡を見ながら整えている。家族に協力をお願いし、美容院へ連れて行ってもらうたり、出張カットでは髪の長さを利用者に決めてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おはぎやちらし寿司作りを一緒に行なったり、職員と一緒に食事をとるようにしている。 外食の回数は減っている。	献立は全職員で考えている。全介助の入居者が若干名いるが自立されている方が多い。食事形態もミキサー食の他は通常の形態となっている。当初の献立を入居者の意向や希望にそって当日になって変更することもあり、おはぎや五平餅など入居者が主役になって作ることもある。入居者で出来る方は調理や配膳、後片付けなども行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況に合わせた食事作りをしている。必要に応じて水分量をチェックしている。 入居者の嗜好に合わせたメニューを出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所で歯磨きを行なっている。 週二回義歯洗浄剤を使っている。 できるだけ自分で磨いていただき、仕上げをスタッフが行なっている。		

グループホーム・せせらぎの家 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、紙パンツ・パットもその人に合わせて対応している。 失禁時などの対応は自尊心を傷つけない様になっている。 排泄チェック表を使用し、排泄パターン把握し、個々に合わせた誘導を行い支援している。	自立されている入居者も約三分の一ほどおり、職員が一人ひとり排泄の特性を把握していることから、できるだけトイレでの排泄をするように支援している。 自宅にいた時よりも入居後明らかに状態が良くなった方もいるが全般的には介助の回数が増えてきている。夜間のみオムツを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に基づき、飲食物を工夫して自然排便できる様に心掛けている。 職員間で話し合い身体を動かす事の意識づけをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴チェック表をつけて、タイミングを見ながら声かけをして、入浴されている。 一人一人のペースに合わせて、ゆっくり入ってもらい。ひとりでゆったり入れる時間に配慮している。	入居者の希望にそった入浴ができています。入浴時間は午睡の後の13:30～15:00で少なくとも週2回は入浴しており、清拭で対応する場合もある。今のところ職員一人で十分支援でき、場合によっては二人で介助することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の入眠に合わせて、寄り添ったり、暖かい飲み物を飲んでもらったり、ゆったりと眠りにつけるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変わった時は、薬局に副作用や内服の仕方を確認している。そして、職員一人一人が服薬の支援をしながら状態の変化の観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域の行事に声をかけてもらい、参加したりしている。 お手玉や料理の下ごしらえなど、得意なことを引き出しながら、役割につなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望で毎日散歩に出掛けている方がいる。 ちょっとした時間に外気にふれる機会を作るようにしている。 地域の行事に声を掛けて頂き、外出の機会を作って出掛けている。	入居者の身体的な能力や希望にそって天気の良い日にはホーム周辺を散歩している。各ユニットとも外出時に車椅子を使用する方が2～3名おり、やや外出の機会が少なくなりつつあるが、行事外出としてシーズン毎に花見、いちご狩り、家族との日帰り温泉旅行等で出掛けている。	

グループホーム・せせらぎの家 2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員が行なっている。 お財布を持っている利用者はあるが、買い物に行く機会が減っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら希望がある時は、電話をかけている。また、家族からの電話があった時の取り継ぎをしている。 家族から届いた手紙や葉書きは、御本人に渡して見てもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの湿度や室温、TVの音に配慮しながら、居心地の良い空間作りに心掛けている。 季節感を感じてもらえる飾りつけを行なっている。 居室になじみのあるタンスを入れて過ごされている方もいる。	地域交流スペースを除くと1階、2階ともに同じ配置となっている。入口から右手に事務室、左手に厨房がある。居室を周囲にめぐらし、中央に食卓テーブルと椅子、ソファコーナー、畳の小上がりなど入居者のくつろげる空間が十分にある。外出時のスナップ写真、習字や絵手紙などの入居者の作品も貼られており、穏やかな暮らしを送っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何か所かイスやテーブルを置いて、一人になる空間を作っている。 食事のテーブル席で落ち着かされている方もいる。 テーブルに雑誌やアルバムを置いて自由に読んでいただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのもの(タンス・鏡台・イスなど)を置いている。また、使い慣れた布団や枕を持ってきている。 御家族の写真を壁に貼っている方もいる。	各居室は床暖房とエアコンで調節されている。居室には造りつけの収納庫があり、ベッドや箆笥、衣裳ケース、衣裳ラックなどが持ち込まれている。整理整頓が行き届いた清潔な印象を受ける居室が多く見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレを表示したり、居室が分かるように工夫している。 夜間トイレに出てこられる方への灯りの配慮に気をつけている。		